

いま、中学校を考える（2）

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

混迷を深める中学校問題をどのように解決したらよいか。①9月24日に足利市内の中学校を視察させて頂き、②10月6日に栃木県教育委員会の教育研究所から講話を頂き、更に③10月15日「いま中学校を考える」というシンポジウム(基調講演は森山真弓・元文部相中学家長、小田晋・筑波大名誉教授、鈴木仁・中教審委員)を開かせて頂いたこと(坂本安男氏が代表世話人、私が副代表世話人を務める栃木県経済同友会・新世紀経済経営研究会がすべて主催)をふまえ、非常に片寄った観点からではあるが私見を述べさせて頂く。

*今回の調査・研究は、市→県→国と教育行政を勉強させて頂くという意味で、とても有意義であった。中学校の先生方、足利市教育委員会、栃木県教育委員会、文部省、栃木県PTA連合会、小田先生、森山先生と参加頂いた方々に心から感謝申し上げたい。

2. いま、中学校を考える

①中学校教育の担い手である中学校の先生方は、あまりにも忙しすぎる。先生本来の仕事の一つである(私は最も大事な仕事と思うが…)「授業」の十分な準備すらできないというのが現状だ。生徒は午前8時ころから登校するので、先生は午前7時半すぎには学校に到着しなければならない。午後は6時ごろまで部活動があるから、6時すぎまでは学校にいななければならない。午後8時や9時すぎに学校を出ることも多いという。土曜、日曜は部活動の指導や引率、様々な行事で学校その他に出ることも多い。家に帰るのは、午後9時すぎ、朝家を出るのは7時前ということ、家ではボタン・キューで眠るだけがせいじっぱい、とても毎日の授業の予習や教案作成(レッスン・プランづくり)まではできないというのが実情。できてもテストの採点や通知票づくりくらいまでがせいぜいらしい。

学校での空き時間は少しあるものの、事務作業や生徒指導に追われ、とても学校で授業の準備や教案づくりはできない。では、どうするかといえば、少しは授業前に教科書位はながめるものの、「ブツケ本番」とならざるを得ない。「学校での授業がわかりにくい原因」はこのへんにあるのではないか。

②では、どうしたらよいか。先生であろうと人間であるので、1日を24時間以上には使えない。今やっている何かをやめてもらって、先生に勉強する時間をとってもらう以外ない。

思い切って、「部活動」はアウト・ソーシング、つまり「民間のボランティア」に委ねたらどうか。中学校の先生でなくても、部活動の指導はいくらでも可能だ。地域には秀れた指導者がたくさんいる。また、礼を尽してお願いすれば、快くお引き受け頂ける方も多いと確信する。

中学校に地域の指導者が部活動の指導者として訪問することは、中学校を社会に開かせ、活性化させる上で有用だ。

また、言いにくいことだが、「スポーツが不得意でコーチとしての本格的なトレーニングを受けたことのない先生」も多い。そのような先生の指導のもとで毎日2時間、1年に500時間、中学3年間で1000時間以上も、全く意味のないトレーニングを部活動の中で受けている生徒がいたらあまりにも気の毒だ。医師免許のない人から医療行為を受けているのと同じで、心身の発達上危険この上ないとさえ言える。部活動はその道の専門家、つまり十分コーチや教え方のトレーニングをつまめた方をお願いした方がよいと思う。中学校の先生が、いろいろ忙しくて「授業」の十分な準備すらできないというのなら、部活動は地元のボランティアの方におまかせし、その時間は「授業」にあててもらえればと思う。

③中学校の先生を部活動の指導からはずせば、年間で500時間以上負担が減ると考えられる。その500時間を使えば、授業のレッスン・プランづくりや、生徒一人ひとりとのカウンセリング、家庭訪問、PTA活動などやって頂ける。随分「ゆとり」が出てくる。

④ただ、「中学校の先生が『部活』の指導をしなければ、生徒は非行に走るのではないか」との反論もある。更には「生徒指導としての部活動は必要」、「とにかく夕方や休みの日に学校に生徒を放したら何をするかわからないから、中学校の先生が直接部活動で面倒をみる以外にない」、極端に言えば、「だから、我々中学教師が命を張って部活動をやるのだ。我々以外、誰も部活の指導はできないし、また、させたくもない」という考えもある。

⑤私も、中学時代に随分部活動で先生方に指導して頂いた。柔道と陸上で、県大会に毎年出場させて頂いた。中3の時はコーラスでも県大会に出させて頂き、とても充実した中学校生活を送らせて頂いた。お陰で何十年たっても大きな病気一つしない。有難く思っている。ただ、現在の中学の先生は、あまりにも多くの問題を中学校がかかえているために、時間が足りない。足りなければ、他の人で代われるものを見つけだし、代わってもらったらどうか。その第一候補が「部活動の指導」であるというのが私の意見だ。部活動は、健康な身体づくり、また、生徒によっては生活指導上必要であるという意見には私も賛成だ。しかし、部活動は中学の先生しか担当できないとは思えない。問題児のいる部活動はもちろん中学の先生が担当するにしても、大方はボランティアの方々におまかせした方がよいのではないか。

⑥「謝礼はどうする。ボランティアの方にでもキッチリ支払ったら一つの中学でも1000万円以上になる。そんな予算がどこにある」という問題もある。無料でやって頂く方をさがすのも一つの方法。または、受益者負担ということで、よくPTAの方々とお話し合っ頂き、生徒一人から1000円位ずつ毎月部活動補助費として徴収するのも一つの方法。

*よく考えれば、正規の授業時間外に中学3年間で合計1000時間以上も無料で部活動の指導を受けてきたことの方が問題かも知れない。先生方には、部活動のための時間外手当や休日出勤手当は、民間の普通の仕事と比べたらほとんど出ないと言ってよい。すべて、中学校の先生方の金銭的な犠牲の上に成り立ってきたのが今までの部活動であるとも言える。

⑦栃木県の8300億円あまりの県予算の24%が教育費に使われ、その約3分の2が教職員の人件費として使われていると、5月に栃木県経済同友会で開かれた栃木県予算の説明で教わった。そんなに人件費として使われるのなら、中学校の中学校の先生の仕事内容についても、納税者

の一人として考えさせて頂いてもいいのではないかと思います、「部活動はボランティアにまかせ、空いた時間は、しっかりと先生本来仕事である授業の準備やカウンセリングを！」という提案をさせて頂いた。

皆様も、是非、納税者として中学校問題をお考え下さい。

3. おわりに

①「なぜ、中学校の廊下や階段のおどり場はあんなにも暗いのだろう」と、いろいろな中学校に行き不思議に思う。「なぜ、教室の電気はあんなにも少なく、教室全体がうす暗いのだろう」とも、いつも思う。「なぜ、立派なコンピューターを何十台も入れてある部屋に、エアコンが入っていないのだろう」とも思う。1000万円近くかけて何十台もコンピューターを入れても、温暖化の昨今は、4月の中旬から10月中旬までの半年の間は、教室を閉め切ったら30度以上に温度が上昇し、コンピューターの学習どころではないことは誰が考えてもわかるのに。コンピューターを2台減らし、家庭用のエアコンを教室に何台かつけるだけで十分温度は下がるのに創意工夫が足りないと思う。

②どこの中学も校舎の色が殺伐としている。デザインというものが感じられない。まるで、私が大学生の時に毎週のように視察し続けていた少年院や刑務所等矯正施設のような感じさえる。

③中学校の教室や廊下、階段の照明は、もっともっと明るくするべきだ。11月下旬になれば夕方もう暗くなる。あの程度の照明で十分な勉強ができるのか。廊下や階段のうす暗さは刑務所や少年院にも劣るほどだ。冬場の夕方、ほとんど真っ暗な階段のおどり場では、どんな事件があってもおかしくない。

ぜひ、この文章をお読みの市町村議会の議員の皆様は、御自分の選出地区の中学校に11月の中旬以降5時過ぎにお出かけになり、教室や廊下、階段等の照明について調査をなさっていただきたい。もし、教育施設として暗いとお感じになったら、ぜひ来年度の予算編成の中に照明を一か所でも明るくする予算を入れるよう行動を起こしていただきたい。一年でできなければ、5年計画をたてても、中学校を必要などころだけでいいから、明るくするようがんばって頂きたい。

④中学校の校舎の色づかいは、本当にデザイン感覚ゼロとしか思えないところが多い。同じ塗料を塗るのでも、もっとデザイン的に創意工夫があつてしかるべきだ。校舎を見てワクワクする、思わず毎日行きたくなるようなデザインや色使いを、校舎の色彩では考えるべきだ。スペインの駅のペンキの色使いなど、目を見張るものがある。両毛地区は繊維が盛んで、デザイン力があると思われるのに、産業デザイン、学校のデザインにまでそれが活かされていないのは残念だ。建築家は、もっと声を大きくして、おかしいものはおかしいと言つてしかるべきだ。

⑤とれる予算は少ないかもしれないが、本気で中学校の再生を考えるのなら、中学校の校舎を毎年一つずつでも、もう一度「心温まるもの」「生徒が楽しくワクワクしながら毎日通いたくなるもの」にデザインを変えてみることも大事かと思う。

⑥最後に。いろいろな事件が起こる毎日であるが、何がよいか、悪いかを判断する時には、やはり殺人事件があれば殺人事件を犯した犯人が最も悪く、窃盗事件があれば他人の者を盗んだ犯人が悪い、ということを基準に物事を考えるべきだと思う。犯罪現象が目の前で起こっているにもかかわらず、皆がやっていることだからと放っておいてよいことはない。悪いものは悪いと断固言い通すことが大切かと思う。

ナイフ、覚醒剤は言うに及ばず、大麻、麻薬までが中学や高校に広まっていると言われて久しい。自転車窃盗に至っては、当たり前とすら言われている。いかに価値観の多様化が叫ばれようが、犯罪行為だけは青少年に許してはならないと思う。

警察、検察、保護司、保護観察官、家庭裁判所、少年院、刑務所等の矯正施設、医師、マスコミ、経済団体等が、中学校や PTA、地区育成会等と十分連携し合って、少なくとも、自らの中学校から犯罪行為が一件も出ないよう、もし不幸にして犯罪者が出たら、その者が再犯者にならないよう話し合いを続けるべきだと思う。